

山行報告 奥多摩 海沢谷・天地沢

【日程】2016年6月18日（日）日帰り 晴れ

【参加者】CL 柘植、SL 石橋、石井、薄井

【コースタイム】奥多摩駅 9：30→10：45 天地沢入口 11：15→（天地沢遡行）15：15 鋸尾根上
鋸尾根上 15：40→17：50 奥多摩駅

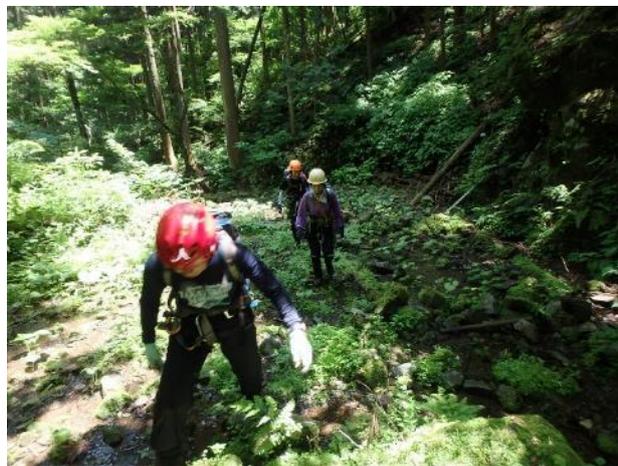


【記録】

当初は井戸沢のつもりで来たが、海沢瀑流帯入口あたりに看板があり、井戸沢は伐採作業中のため入渓禁止となっていた。事前のNET調査ではそんな情報は見当たらなかったのにナゼ？と思ったが、ルール破りはいやだし、そもそも伐採で荒れた沢に行く気もしない。それでみんなで相談したが、現在地点はちょうど天地沢の入口付近であり、天地沢は「奥多摩の谷 123 ルート」に井戸沢とともに載っていた記憶があるので、それなりに遡行価値のある沢なのだろう、ということから現地判断で天地沢に転進することにした。地形図で見ると天地沢は入口からしばらくは傾斜は緩いが中間部で幅が狭まり、傾斜のきつくなっているところがあるので、このあたりに大滝があるかもしれないが、たぶん登れないし、巻き道はしっかりついていると思われるので、よく探していこうと話し合った。



入渓地点付近



遺棄された？ワサビ田の中を進む

最初のうちは予想通り淡々としたいかにも奥多摩らしい溪相。そのうち両岸が狭まってきたかなと思うと期待に違わぬ見事なスラブ状のF1が出てくる。一見して登れないので、目視で巻きルートを探る。帰宅してからガイドを読むとF1は左岸（向かって右手）を大高巻きで通過することになっていたが、滝左手のもろいルンゼを登れそうだったので、そこにチャレンジ。2ピッチで滝頭の左に出て4mほどの懸垂で沢床に下りられたが、この通過にたぶん1時間近くを要した。こんなのがまた出てきたらかなわないなと思ったら、さっきの以上の滝が登場。これも見るからに登攀不可で、じっくり巻きルートを探す。ここは少し戻ったところの左岸の枝沢から巻けそうと判断して登ってみると、上部で仕事道状に出会い、今度は難なく巻くことができた。



F1 : 15mくらい？



F2 : 20mくらい？

※写真とともに「ザイルと焚火と焼酎と」さんのサイトから借用

この仕事道は天地沢の左岸にしばらく続いており、たどっていくと目標としていた標高650m付近の枝沢入口に到着した。最初はこの枝沢を登って天地山西側のコルに出ようと考えていたが、沢床はごろ岩や伐採枝で歩きにくいので歩きやすい左手の尾根に取り付いた。地図で見るとこの尾根は鋸尾根と天地山の分岐付近につきあげているので、奥多摩駅に戻るのも便利だ。かなり急な尾根だったが辛抱して稜線に出ると、鋸尾根の分岐はすぐそこだった。奥多摩駅まで降りて、駅前食堂で打上げを行い、帰葉した。

帰ってから天地沢の遡行記録を調べてみると2つ見つかったが、ともに中流部から同沢を下降して海沢林道に戻っており、遡行ガイドでもそのような案内をしていた。我々は尾根まで登ってしまったが、ガイドに頼らずに周回ルートで歩けたのはよかったかなという気もした。同行者は「沢登りに来たのか、尾根登りに来たのか分からない」という声もありましたが……

記録担当：柘植